

■池島信平 雑誌記者。名企画を次々と打ち出して、敗戦後再出発した『文芸春秋』を国民雑誌に育て上げた。

いけじましんべい

伊藤博文暗殺1909＝ 新潟柏崎から東京市本郷に出て、東京牛乳商組合長をつとめるほど大きくなった牛乳屋の次男に生まれる。

母も牛乳屋の仕事に追われていたため、毎年、伯母の家に預けられて育ち、

明治天皇没・1912＝ 3歳：

第一次大戦始1914＝ 5歳：本郷区の元町幼稚園に入園。

民本主義・・・1916＝ 7歳：本郷区立本郷尋常小学校に入学

本格政党内閣1918＝ 9歳：

言われなくても良く勉強、

原敬首相暗殺1921＝12歳：

水平社結成・1922＝13歳：腎臓病で東大附属病院に入院、母の機転で九死に一生を得るも、一年休学。

関東大震災・1923＝14歳：東京府立第五中学校(都立小石川高校)に入学。この年、『文芸春秋』が創刊される。

伊藤長七校長から考え方・生き方の影響を受ける。

金融恐慌・・・1927＝18歳：五中を四年で修了し、新潟高校(旧制)文科甲類に入学。

海軍軍縮条約1930＝21歳：大学入試の日に父が脳溢血で急逝。東京帝国大学文学部西洋史学科に入学。

満州事変・・・1931＝22歳：

『文芸春秋』を愛読し、

国際連盟脱退1933＝24歳：『文芸春秋社』が初めて実施した公募入社試験を受け、入社して(話)編集部配属される。

戦時体制に呼応する形で『文芸春秋』が隆盛に向かう中、記者が収集した談話記事を編集しながら、雑誌記者のノウハウを身に付け、さらには菊池寛のゴーストライターをもつとめるようになりながら、(芥川賞)〔直木賞〕が制定された年、肺結核を患い、沼津に転地療養、その間、両親の郷里柏崎の大文具店の娘の縁談が持ち込まれ、

二二六事件・1936＝27歳：

日中戦争始・1937＝28歳：2年近い手紙のやりとりの後、結婚、小石川区高田老松町に住む。

健保+総動員 1938＝29歳：長女が誕生。

第二次大戦始1939＝30歳：(話)の誌面も戦時色に染まり、特派員として朝鮮北支に旅行。

大政翼賛会・1940＝31歳：(現地報告)編集主任となり、

日米開戦・1941＝32歳：発禁とそれに伴う社内の指弾も体験。次女が誕生。

創価学会検挙1943＝34歳：三女が誕生。(話)が廃刊となり、出版部長となる。『満洲文藝春秋社』創立、編集部長として単身赴任。

年金+総武装 1944＝35歳：*本社に帰任し、『文芸春秋』編集長となるも、戦時統制で腕を振るえず、無為の日を過ごす。

敗戦・・・・・・1945＝36歳：本郷の本家が爆撃により焼失し、菊池寛宅に寄寓。応召で横須賀海兵団に入り、北海道千歳571設置隊に配属。〈敗戦〉後、一等水兵に進級して復員。小石川区の友人宅に寄宿。『文芸春秋』(オール讀物)が復刊。*B級戦犯会社の指定を受けて『文芸春秋社』が解散、佐佐木茂索を社長に『文芸春秋新社』が設立される。戦前に発禁を受けていたことで自らへの追及は免れ、取締役兼編集局長に就任。

新憲法公布・1946＝37歳

妻が栄養不良と肺炎に罹り、五番目の子が誕生直後に死去。菊池寛や編集長が公職追放となり、

新憲法施行・1947＝38歳

社内が一気に若返るとともに、『文芸春秋』編集長を引受け兼務する。菊池寛の死去に偶然居合せる。胸を病み休職、自宅療養しつつ諸雑誌を乱読、

極東裁判判決・1948＝39歳

三大事件・・・1949＝40歳

目玉企画「天皇陛下大いに笑ふ」がヒットして大躍進の契機となり、『文芸春秋読者賞』も制定、

朝鮮戦争始・1950＝41歳

早くも、中央区銀座西に自前の社屋を新築して移転。

独立回復・・・1951＝42歳

『文芸春秋』編集長を解かれ、編集局長専任となる。スイスのローザンヌで開かれたペンクラブ国際大会にオブザーバーとして出席のため石川達三・芹沢光治良と共に渡欧。

マーラー事件・1952＝43歳

沖縄旅行。

TV放送始・・・1953＝44歳

扇谷正造・花森安治氏との鼎談「おかめ八目」(NHK放送)開始。イギリス外務省の招待で、福原麟太郎・河上徹太郎・吉田健一と渡英し、仏独を廻る。

自衛隊発足・1954＝45歳

『漫画読本』創刊。

55年体制始・1955＝46歳

『編集者の発言』を(暮しの手帖社)より刊行。社屋を移転。

国連加盟・・・1956＝47歳

『文芸春秋』編集長を再び兼任。「ジャーナリズムの窓から」を刊行。設立された国鉄諮問委員会委員に就任。

なべ底不況・1957＝48歳

日雑誌記者生活25年を祝い、『信平を励ます会』が開かれる。『文芸春秋』編集長解任、編集局長専任となる。

インストラメン・1958＝49歳

アメリカ国務省招待で扇谷正造と渡米。記者生活25年を記念して「雑誌記者」を(中央公論社)より刊行。

美智子妃・・・1959＝50歳

「文壇よもやま話」(NHK放送)の司会を嶋中雄三と受けもつ。渡米。『週刊文春』創刊。

安保闘争・・・1960＝51歳

専務取締役就任。「歴史よもやま話」(NHK放送)の司会を担当。

タイタイ病始・1961＝52歳

長女が結婚。今日出海と韓国旅行。

全国総合計画1962＝53歳

台湾・フィリピン・インドネシアを旅行。

TV宇宙中継始1963＝54歳

次女が結婚。

東京リビック 1964＝55歳

初めての高血圧発作で肺出血し、在宅療養。

大学紛争始・1965＝56歳

社名を(株式会社文芸春秋)に変更し、千代田区紀尾井町に新築移転。司会したNHKの「歴史よもやま話」を『文芸春秋』から刊行。*才能を評価して編集を任せてくれた社長佐佐木茂索が死去、後を継いで社長に就任。

いざなぎ景気1966＝57歳

インドネシア・フィリピン・沖縄旅行。洋酒天国シリーズの一冊「架空会見記」をサントリーから刊行。放送文化賞を受賞。東京12チャンネル「人に歴史あり」の第一回に出場。出版委員会団長としてソ連を訪問。

震ヶ関ビル・1968＝59歳

紀伊國屋書店サンフランシスコ店開業の祝いで出席、帰途ハワイに遊ぶ。オーストラリア・ニュージーランド旅行。還暦で媒均した夫婦63組を招いて祝宴。二度目の高血圧の発作で静養。『諸君!!』創刊。

全共闘バウ・1969＝60歳

三女が結婚。新雑誌『文芸春秋臨時増刊』創刊。(日本映像出版)社長に就任。『漫画読本』休刊。〈三島由紀夫割腹事件〉後、『諸君!!』に連載した三島の父の手記で川端康成を怒らせ、『週刊文春』記事で決定的になる。

大阪万博・・・1970＝61歳

今日出海氏・喜多長政と香港旅行。「歴史好き」を三刊行。フランス旅行。

トルジョック・・・1971＝62歳

カナダ・メキシコ旅行。『文芸春秋』創刊50周年記念の海外愛読者大会で、江藤淳・司馬遼太郎と英仏独など

日中国交回復1972＝63歳

五カ国で講演。グアムのホテルオークラ開業祝典に出席。川端康成が自殺。

石油ショック 1973＝64歳

出先で三度目の発作、昏睡状態となり、没した。